

上田令子

うえだ
れいこ緊急!!
レポート

～独自調査・質疑でカイゼンを積み重ね、常時改革実現中!～

Renaissance & Revolution ▶▶ r&r【都議会-NEWS臨時号】

上田令子

検索



葛西臨海水族園公式HPより

取り壊しの危機!?

都庁官僚主義から守れ!
葛西臨海水族園

～持続可能な東京に反する、スクラップ & ビルド都政の実態～

江戸川区民から地域のシンボルとして愛され続け、東京のみならず全国から多くの来館者を集める葛西臨海水族園が、いま、存続の危機に面しています!

葛西臨海水族園本館の設計者は、ニューヨーク現代美術館新館、また昨秋リニューアルされ話題になったホテルオークラのロビー改修を手掛けた、谷口吉生氏。この世界的巨匠による近代建築公共文化財が、竣工からわずか30年で葬り去られようとしています。それは同時に、江戸川区民そして訪れた5700万人全ての方々思い出、“記憶遺産”が奪われることを意味するのです。この損失は計り知れません。

小池百合子知事の驚愕発言が
世界的ひんしゅくを買う

本来、葛西臨海水族園の維持、および地域に根差した海洋環境の保全をどう実現させるか議論すべき場として、『葛西臨海水族園のあり方検討会』が発足したのは2017年11月。それから2年。検討会は本来の姿から、「老朽化・バリアフリー対策ができない」との理由のもと、解体か、はたまた怪しげなベンチャー企業への売却が懸念される“ハコモノ新設構想”へとすり替わっていました。

危機感を募らせた関係者は、日本建築学会主催による『葛西臨海水族園の長寿命化を考える』シンポジウムを2019年12月19日に開催。そうそうたる建築家および地域住民等が結集する中、ハーバード大、イエール大の教授陣からは、本館から水族館機能を奪うことを強く批判する異例の小池百

合子東京都知事宛要望書が送られました。

その後、開催された第4回『葛西臨海水族園のあり方検討会』は、新設ありきで話を進める東京都建設局サイド VS 既存施設を存続すべきと異議を唱える委員らが真っ向から対立し大紛糾! テレビ・メディアに大きく取り上げられ焦った知事は、記者会見にて「結婚式で再利用したら」と、谷口氏が創造した空と海と水が一体化する水族園の価値を冒涇するようなコメントを発し、世界の良識派から大ひんしゅくを買ったのです。

東京都の虚偽・怠慢を見抜く

そもそも、都が主張する「水族館機能の継続不能」に根拠はありません。先のシンポジウムと上田による情報開示請求の結果、継続可能であることは明白で、都の言い分は詭弁であったことが判明しているのです。さらには、次のように、ずさんな管理体制も確認されています。

都の理由

1

設備改修が困難→【実態】老朽化調査に基づき、各種対策が用意されていたにもかかわらず未実施。

都の理由

2

バリアフリー対策の不備→【実態】対策のための基本設計を完成させながら、一部しか実施せず。

そりゃあ、何もしてなかったら老朽化もしますわな…。官僚主義は「悪口/リーク/サボタージュ」と言われますが、今回はその典型例。「悪口=老朽化を都議会などへ計画的に吹聴/リーク=マスコミに提灯記事を書かせる/サボタージュ=各対策を放置」が起きてしまいました。【→裏に続く】

